2022年11月20日 聖日礼拝

インターネットの礼拝映像配信は9時より。11時からは録画を視聴できます。

れ主諸見 招前 11 祝頌献会 聖使礼交主会会 後 説 衆 書 徒 拝 の衆衆 報 るが国よ、 月 祈賛賛 替 告 朗信祈 アき民闇詞奏 20 祷栄金美 教 読 条 祷 読り 美 美 をが 日 1 聖 詩 感 罪 出 イ聖 °_地イ 主 歌 エ歌 のしをザ 謝 歌 を エ 篇 聖 3 犯 ジ ス 5 祈 5 栄かおヤ 4 日 祷 7 7 プ 1 **の** 0 光しお書 し 礼 2 た 32 ト 血 2 6 篇 が っ60 章 記 ああて ア 荻 潮(10 1 野口 でし、 なない 5 たたる2 泰ン 1 17 のの。 2 弘 1 2 (上上暗 牧 回節 節 14 に思まが 師 節

■聖歌502「まよえるとき光を」(1, 2節)

- ①まよえるとき光を 疲れしとき いのちを 祈らば答えをたもう 主は救い主なり
- ※重荷もなく迷いもなき 旅路ぞ たのしき 共にいますキリストこそ わが身の神なれ
- ②まことと愛とに満ち 約束なししことを 必ず成しとげたもう 主は救い主なり
- ■「イエスの血潮で」(★→※→★の順序で歌う)
- ★イエスの血潮で 救われ 癒(いや)され 天の御国へと 導かれる イエスの血潮で 赦され 満たされ 尊い その血潮で
- ※天の父と こひつじイェス ひざまずき歌う 聖なる御名 全地は歌う あがないの歌 栄光は主にあれ
- ■主の祈り 天にましますわれらの父よ。ねがわくは 御名をあがめさせたまえ。御国をきたらせたまえ。御記の天になるごとく、地にもなさせたまえ。われらの目用の糧を今日もあたえたまえ。われらに罪をおかすものを われらが 赦すごとく、われらの罪をも赦したまえ。われらを こころみにあわせず 悪より救いいだしたまえ。国と力と栄えとは かぎりなく なんじのものなればなり。アーメン

■交読 詩篇 5 1 篇 10 節~17 節

- 10 神よ 私にきよい心を造り 揺るがない霊を 私のうちに新しくしてください。
- 11 私を あなたの御前(みまえ)から投げ捨てず あなたの聖なる御霊(みたま)を 私から取り去らないでください。
- 12 あなたの救いの喜びを私に戻し 仕えることを喜ぶ霊で 私を支えてください。
- 13 私は背く者たちに あなたの道を教えます。 罪人たちは あなたのもとに帰るでしょう。
- 14 神よ 私の救いの神よ 血の罪から私を救い出してください。私の舌は あなたの義を高らかに歌います。
- 15 主よ 私の唇を開いてください。 私の口は あなたの誉れを告げ知らせます。
- 16 まことに 私が供えても あなたはいけにえを喜ばれず 全焼のささげ物を望まれません。
- 17 神へのいけにえは 砕かれた霊。 打たれ 砕かれた心。 神よ あなたはそれを蔑 (さげす) まれません。
- ■使徒信条 われは天地のつくりぬし、全能の父なる神を信ず。われはそのひとりご、われらの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤよりうまれ、ポンテオ・ピラトのもとにくるしみをうけ、十字架につけられ、死にてほうむられ、よみにくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天にのぼり、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこよりきたりて 生けるものと死にたるものとを さばきたまわん。われは聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒のまじわり、罪のゆるし、からだのよみがえり、とこしえのいのちを信ず。アーメン

■聖書朗読 出エジプト記32章1~14節

- 1 民はモーセが山から一向に下りて来ようとしないのを見て、アロンのもとに集まり、彼に言った。「さあ、われわれに先立って行く神々を、われわれのために造ってほしい。われわれをエジプトの地から導き上った、あのモーセという者がどうなったのか、分からないから。」
- 2 それでアロンは彼らに言った。「あなたがたの妻や、息子、娘たちの耳 にある金の耳輪を外して、私のところに持って来なさい。」
- 3 民はみな、その耳にある金の耳輪を外して、アロンのところに持って 来た。
- 4 彼はそれを彼らの手から受け取ると、のみで鋳型を造り、それを鋳物 の子牛にした。彼らは言った。「イスラエルよ、これがあなたをエジプト の地から導き上った、あなたの神々だ。」

- 5 アロンはこれを見て、その前に祭壇を築いた。そして、アロンは呼びかけて言った。「明日は主への祭りである。」
- 6 彼らは翌朝早く全焼のささげ物を献げ、交わりのいけにえを供えた。 そして民は、座っては食べたり飲んだりし、立っては戯れた。
- 7 主はモーセに言われた。「さあ、下りて行け。あなたがエジプトの地から連れ上ったあなたの民は、堕落してしまった。
- 8 彼らは早くも、わたしが彼らに命じた道から外れてしまった。彼らは 自分たちのために鋳物の子牛を造り、それを伏し拝み、それにいけにえ を献げ、『イスラエルよ、これがあなたをエジプトの地から導き上った、 あなたの神々だ』と言っている。|
- 9 主はまた、モーセに言われた。「わたしはこの民を見た。これは実に、 うなじを固くする民だ。
- 10 今は、わたしに任せよ。わたしの怒りが彼らに向かって燃え上がり、 わたしが彼らを絶ち滅ぼすためだ。しかし、わたしはあなたを大いなる 国民とする。|
- 11 しかしモーセは、自分の神、主に嘆願して言った。「主よ。あなたが偉大な力と力強い御手をもって、エジプトの地から導き出されたご自分の民に向かって、どうして御怒りを燃やされるのですか。
- 12 どうしてエジプト人に、『神は、彼らを山地で殺し、地の面から絶ち滅ぼすために、悪意をもって彼らを連れ出したのだ』と言わせてよいでしょうか。どうか、あなたの燃える怒りを収め、ご自身の民へのわざわいを思い直してください。
- 13 あなたのしもベアブラハム、イサク、イスラエルを思い起こしてください。あなたはご自分にかけて彼らに誓い、そして彼らに、『わたしはあなたがたの子孫を空の星のように増し加え、わたしが約束したこの地すべてをあなたがたの子孫に与え、彼らは永久にこれをゆずりとして受け継ぐ』と言われました。」
- 14 すると主は、その民に下すと言ったわざわいを思い直された。
- 15 モーセは向きを変え、山から下りた。彼の手には二枚のさとしの板があった。板は両面に、すなわち表と裏に書かれていた。
- 16 その板は神の作であった。その筆跡は神の筆跡で、その板に刻まれていた。
- 17 ヨシュアは民の叫ぶ大声を聞いて、モーセに言った。「宿営の中に戦 の声があります。|
- 18 モーセは言った。「あれは勝利を叫ぶ声でも敗北を嘆く声でもない。 私が聞くのは歌いさわぐ声である。」
- 19 宿営に近づいて、子牛と踊りを見るなり、モーセの怒りは燃え上がった。そして、手にしていたあの板を投げ捨て、それらを山のふもとで砕いた。

- 20 それから、彼らが造った子牛を取って火で焼き、さらにそれを粉々に砕いて水の上にまき散らし、イスラエルの子らに飲ませた。
- 21 モーセはアロンに言った。「この民はあなたに何をしたのですか。あ なたが彼らの上にこのような大きな罪をもたらすとは。」
- 22 アロンは言った。「わが主よ、どうか怒りを燃やさないでください。 あなた自身、この民が悪に染まっているのをよくご存じのはずです。
- 23 彼らは私に言いました。『われわれに先立って行く神々を、われわれ のために造ってほしい。われわれをエジプトの地から連れ上った、あ のモーセという者がどうなったのか、分からないから。』
- 24 それで私は彼らに『だれでも金を持っている者は、それを取り外せ』と言いました。彼らはそれを私に渡したので、私がこれを火に投げ入れたところ、この子牛が出て来たのです。|
- 30 翌日になって、モーセは民に言った。「あなたがたは大きな罪を犯した。だから今、私は主のところに上って行く。もしかすると、あなたがたの罪のために宥めをすることができるかもしれない。」
- 31 そこでモーセは主のところに戻って言った。「ああ、この民は大きな 罪を犯しました。自分たちのために金の神を造ったのです。
- 32 今、もしあなたが彼らの罪を赦してくださるなら――。しかし、もし、かなわないなら、どうかあなたがお書きになった書物から私の名を消し去ってください。」
- 33 主はモーセに言われた。「わたしの前に罪ある者はだれであれ、わたしの書物から消し去る。
- 34 しかし、今は行って、わたしがあなたに告げた場所に民を導け。見よ、わたしの使いがあなたの前を行く。だが、わたしが報いる日に、わたしは彼らの上にその罪の報いをする。|
- 35 こうして主は民を打たれた。彼らが子牛を造ったからである。それ はアロンが造ったのであった。

■聖歌472「きよいふみは教える」(1,2節)

- ①きよいふみは おしえる 神が 人となられて 人のために救いの 道を成就したこと
- ※わたしをも 愛して 死なれた御方は 神の子の イェスさま ひとりだけだ
- ②そんな愛を忘れて 道に それた わたしを とがめだても しないで むかえいれて くださる

■頌栄 聖歌 3 7 6 「父 御子 御霊の」 父・御子・みたまの おおみかみに とこしえかわらず 御栄えあれ 御栄えあれ アーメン